



溫故雜帖

卷二

2715
12



第十二卷

野之志此跋文 校音改鈔	梅里草堂自題物誌序稿	一	因呂注疏卷七五本斷片
近海山心消息	一 春水春水自筆草稿	一	一 健忘(即為朝)久林稿本
訓詁集(雪本)	二 北山草堂畫	二	二 七代老刀(帶取)
林園主致書幕府(古本)	一 鳥居清偏(長看)校因取	四	一 鞠緒 解法共
文明十年(傳)并家信(抄本)	一 可庵武清(畫稿)	一	一 根津守(數)悼歌
市島克前(家)中(抄)文	一 歌川(國)畫稿	一	一 多(筆)送(師)夢(止)歌(稿)
清(軍)維(保)至(元)年(兩)類	一 梅見門(畫)旦(好)見(稿)因	一	
釋新(亭)詩稿	一 澤庵(和)傳(來)高(亭)因取	一	
四種(家)音圖	一 土伏田(初)摺(歌)	一	
軍國(文)叙(領)于(人)因(古)本	一 寫(山)人(十)五(才)詩(稿)	一	
中(國)撰(文)信(文)子(研)文(七)卷	一 龍(卷)龍(筆)鑑(考)鈔	一	
淺野(長)祿(末)帖(稿)本	一 明(作)軍(中)詩(表)本	一	
空(磨)一(血)雨(三)个(式)用	一 七(哉)禪(師)畫(稿)本	一	
古(畫)	一 仙(溪)庵(上)和(綠)筆(師)筆(試)墨(因)	一	
夜(渡)白(竹)	一 三(子)子(振)子(日)因	一	
川(上)元(顯)詩(稿)外(二)	一 武(藏)野(七)井(名)稱	一	
北(城)筆(地)濃(因)	一 播(磨)寺(即)集(古)中(史)同(校)同(書)三	一	一 平(野)國(臣)歌(中)七(和)歌
世(道)之(像)	一 一(七)七(七)街(門)之(傳)之(師)全(行)方(一)	一	
板(田)七(年)鷄(一)因	一 一(意)小(中)年(秘)傳(片)	一	
古(畫)之(前)面	一 境(田)隨(南)之(詩)稿	二	
古(畫)之(續)	一 光(悅)好(字)四(方)筆(一)稿(本)	一	
三(新)公(句)古(畫)	一 支(那)人(之)帳(面)斷(片)	一	
古(畫)	一 一(密)藤(月)卷(自)筆(一)漱(法)	一	
山(崎)美(成)自(筆)歌(卷)	一 大(智)光(即)封(同)道(葉)者(指)	一	
水(野)哉(前)自(筆)歌(卷)	一 元(長)菜(之)和(歌)	一	
柳(且)下(種)清(自)筆	一 宗(門)破(一)札(書)式	一	
達(摩)屋(在)自(筆)	一 親(讀)一(和)歌	一	



三信抄中納之書付送

年禁

保送六幸

庚申

十月廿二日

英已

辰刻

物賣

女自蓬門入來去賣年存二卷

一卷野邊此居凡代

一事未詳

見一寺中賜價

直

直

如人志成恍惚即已退生

乞

富切之古補之字也

伴其宅自憶小語此自町屋西町屋面之通り
有在借屋師之伴給師之妻也



定住入道手寫一藏經供
養既畢仁平二年謁字治

公上勅衣符后亦作禮而曰
是人既成此勝業之是因何
見著聞集自仁平上訴係
迹僅十餘年宮內大輔字
是此人狩谷望之識

与徐相公书

何者

也物之能一得

商量之能也

然也少身衣指

新正之知是

时去清周南衣

物何止是

物收若何也

用

已春

此花也... 宮城之野
清... 花也...

所... 心... 竹... 竹...

細... 子... 心... 竹...

竹... 竹... 竹...

一... 竹... 竹... 竹...

他... 竹... 竹... 竹...

那... 竹... 竹... 竹...

竹...

一... 竹... 竹... 竹...

也... 竹... 竹... 竹...

竹... 竹... 竹... 竹...

竹... 竹... 竹... 竹...

竹... 竹... 竹... 竹...

竹... 竹... 竹...

人之送我何日

万里东来何再日，一生死守是长襟。

九枝旋更唯到晓，一纸舟能不待秋。

欲以浮生到彼岸，云还悲石火向风敲。

おのい願うさる海をこり はけをす作

何人あつらん 雲乃乃 志く雲

いのら 毎りこる海をこり 舟のるる

行棧

孤館宿時風帶雨，遠帆收處水連雲。

行々重行大明月，渡之曉夕不更眇。

復眺大長風浦之雲，新秋深。

曉入長松之洞巖，泉咽而岩猿以數。

宿極浦之波，青嵐吹而皓存冷。

浦口卸船，帆之波以瀟雪日晴者。

洲蘆數而他鄉渡，岩松秋風送塞情。

蒼波海遠雲千里，白霧山深鳥一聲。

おのい願うさる海をこり はけをす作

何人あつらん 雲乃乃 志く雲

庚申

年長每勞推甲子，初更初共与庚申。

已酉年終冬日少，庚申初更曉光遲。



林
昌
書
跋

水
林
和
泉
山
松
石
泉
源
井
石
泉
壩
出
石
泉
壩
田
泥
金
書
跋

浙用之後

明日江村

坐城山

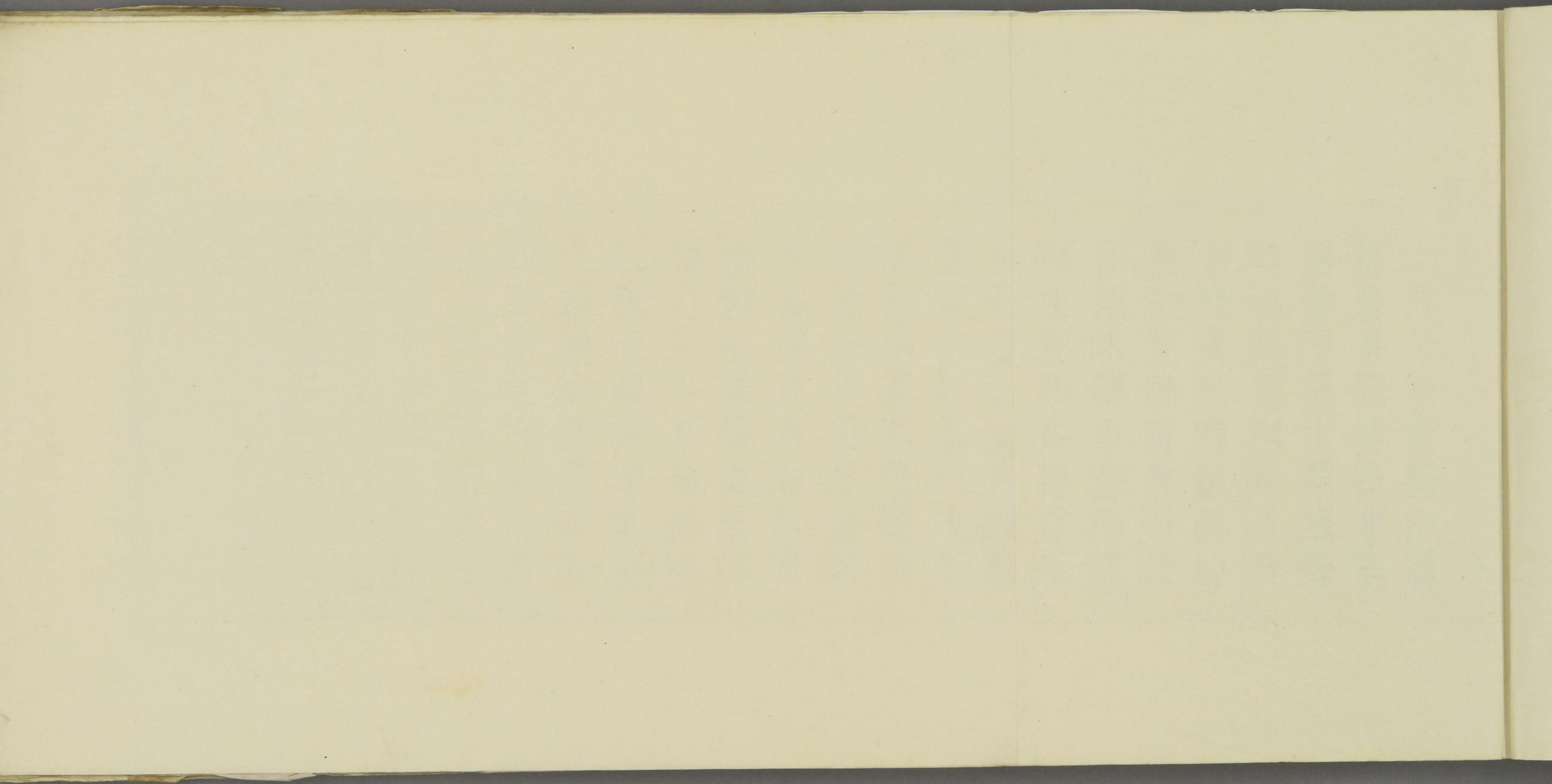
十月廿一日
由泥金書院
加約遠江
城生雲
酒井右京
遠山後
水於和泉

林書改及

函傳寺衆信小謹言上

右子細者雲門菴領就嚴岡年貢珠之
不審先度證文布帛之乃令披見之處
珠之寸分明鏡也仍不及異儀浩居畢
然乃皮珠有布帛者年貢可渡進之由
領掌之處仁于今不渡賜而結句年貢
難渡云言語道斷之次第也所詮
任證文之昔豎三寸橫四寸之珠有布帛者
無相遠年貢可渡進者也仍粗謹言上
如件

文明拾叁年三月日



中略子文

造化福王乾塲始開
鴻允嘖味饒焉艷漸
我火日南稱瑞采固
坵位鼎帶艱產禾麥
天孫降鬯高車雷蹟
三器肩搗熗仁惠德
隸乃皇世東征誅賊
糧運基業創古帝用
因由河戎界限疆場
先設靈告蕊報祖澤
冰垣御犀祀稔禮瘳
璽與劔鏡膏同牀席
誠敬祭祀偏忠懇贖
移止笠繹奉事廟祀
至彬人鬪百誦繼豸
珠城禁胸野見撻垣
途觀角醜蹶誅折助
四諧命將鎮撫區致
發鬻叛亂川確獻賊
餘素又然親討未忘
后親司戈韓歸版籍
離傾耨耨野供賦益
以聖論語儒教於古
惟賢如學澍師阿直
及弟

后執司戈韓歸版籍

雜傾耑壽既成賦益

以聖論語儒教於古

惟昂如學聖師師直

兄弟辭辭頌設讓嫡

睿覽炫燿免粗除沒

有洵濯澎起浸溝濕

百濟逢佛蘇豕賦瀟

豐聰敷慧猶且倍釋

雖蓄團練彝倫反教

隨香交聘傲律於曆

干支紀季迄今續繼

滋賀中興鎌子效績

放虎眈視未姓相厄

度磨編纂巧亦仙帛

然僧覬覦船攪震極

翻氣忠讓綱常扶權

繼勳于湖如茂川側

衽獵希齊民庶繫殖

召瀛崑山左司輔龔

管公超拔負國貶謫

藤門專親業臨外戚

喬使淫佚廢賞優崇

喬使淫佚廢賞優崇

喬使淫佚廢賞優崇

喬使淫佚廢賞優崇

喬使淫佚廢賞優崇

喬使淫佚廢賞優崇

義仲鼎房構齋作市

牛草瞻眈捩跼新敵

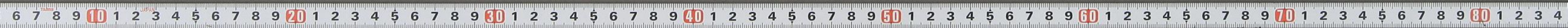
所歷新履三斗作
燦僧銀艤船樓震極
翻氣忠讓網常扶權
繼韻于澗如茂川側
銜獵希齊民庶繫殖
召瀛海山左司輔龔
管公超拔負圖貶謫
藤門專視業臨外威
香傳淫佚廢賞優崇
香傳淫佚廢賞優崇
兩羽跋扈方後僵躄
指窳窳忿慄于厥牆豐
瀟瀟騎傲勢威顯赫
義仲鼎房辯駁作市
牛芴膽咄捭跼敵
壇浦塵戰蒼溟巨灸
賴彭霸府顛陸何亟
俯隸竊權縉緝屏息
隱岐巡拘真堪痛惻
却元扇邊司陞飛檄
颯爽翻瀾羅粉艦舶



山

瑯

紅



山

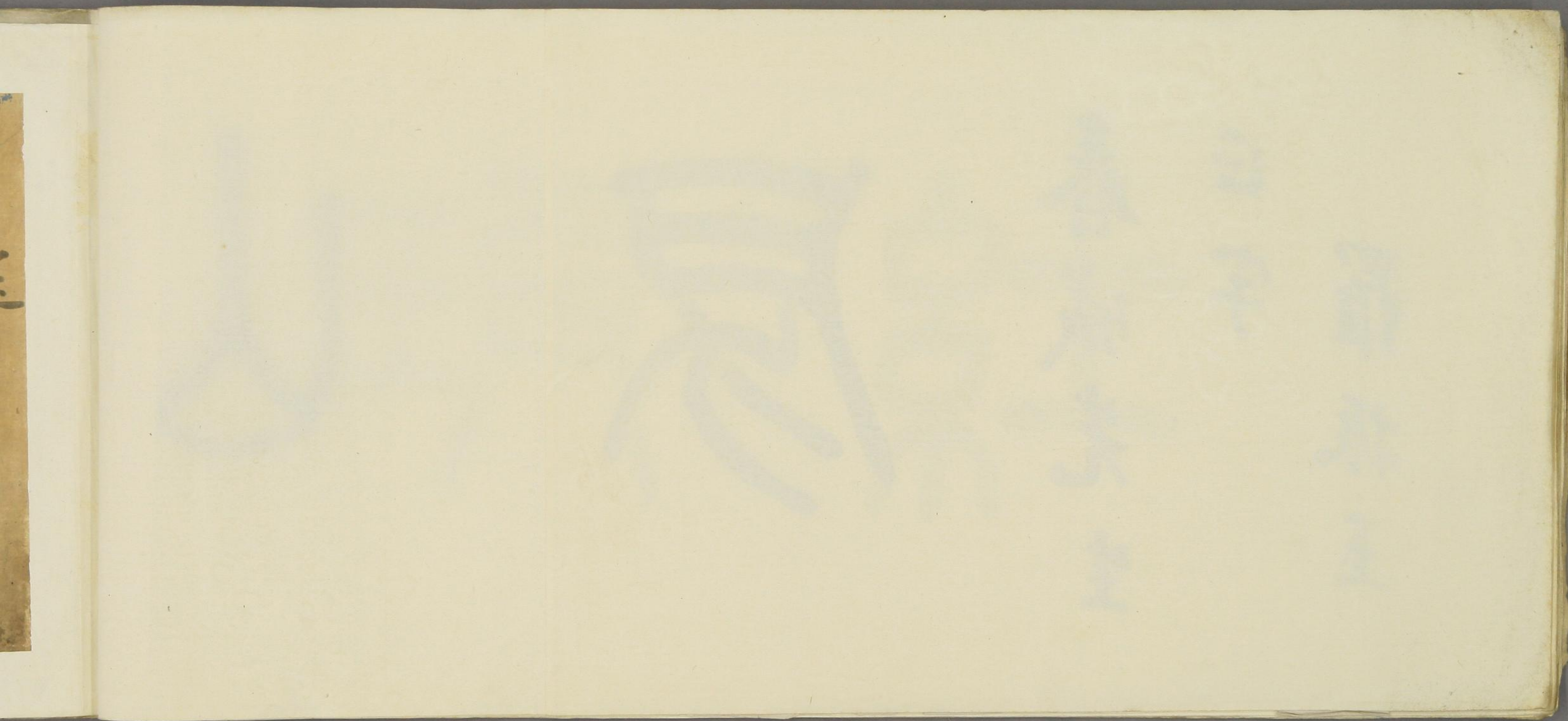
扇

春城先生

正字

羅振玉







送

小林味道之武昌

翩然才子向東方

薰風長鳳毛

詞林大都茂堪息

文翼自由翔

好句

四種變音

第一七聲變

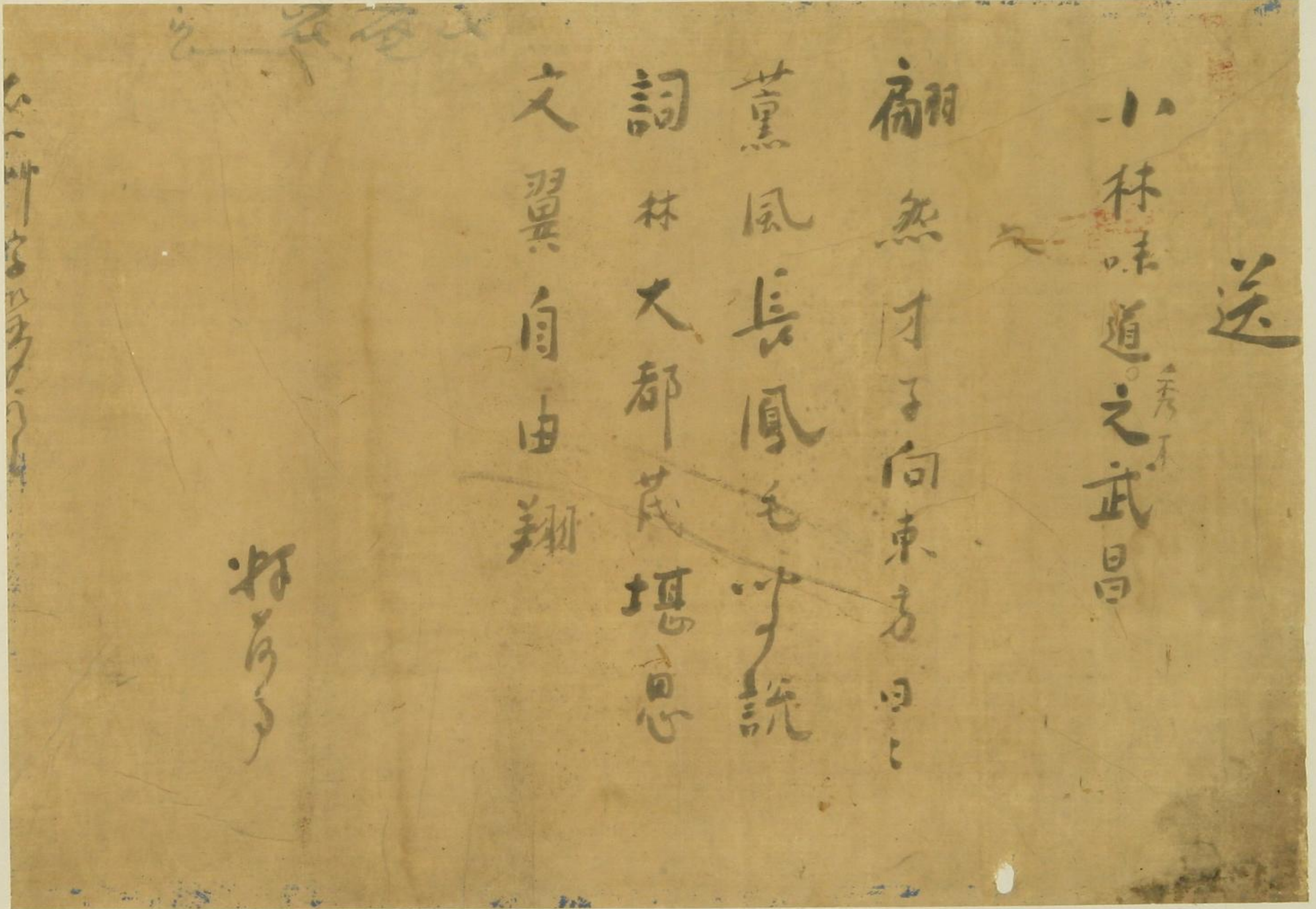
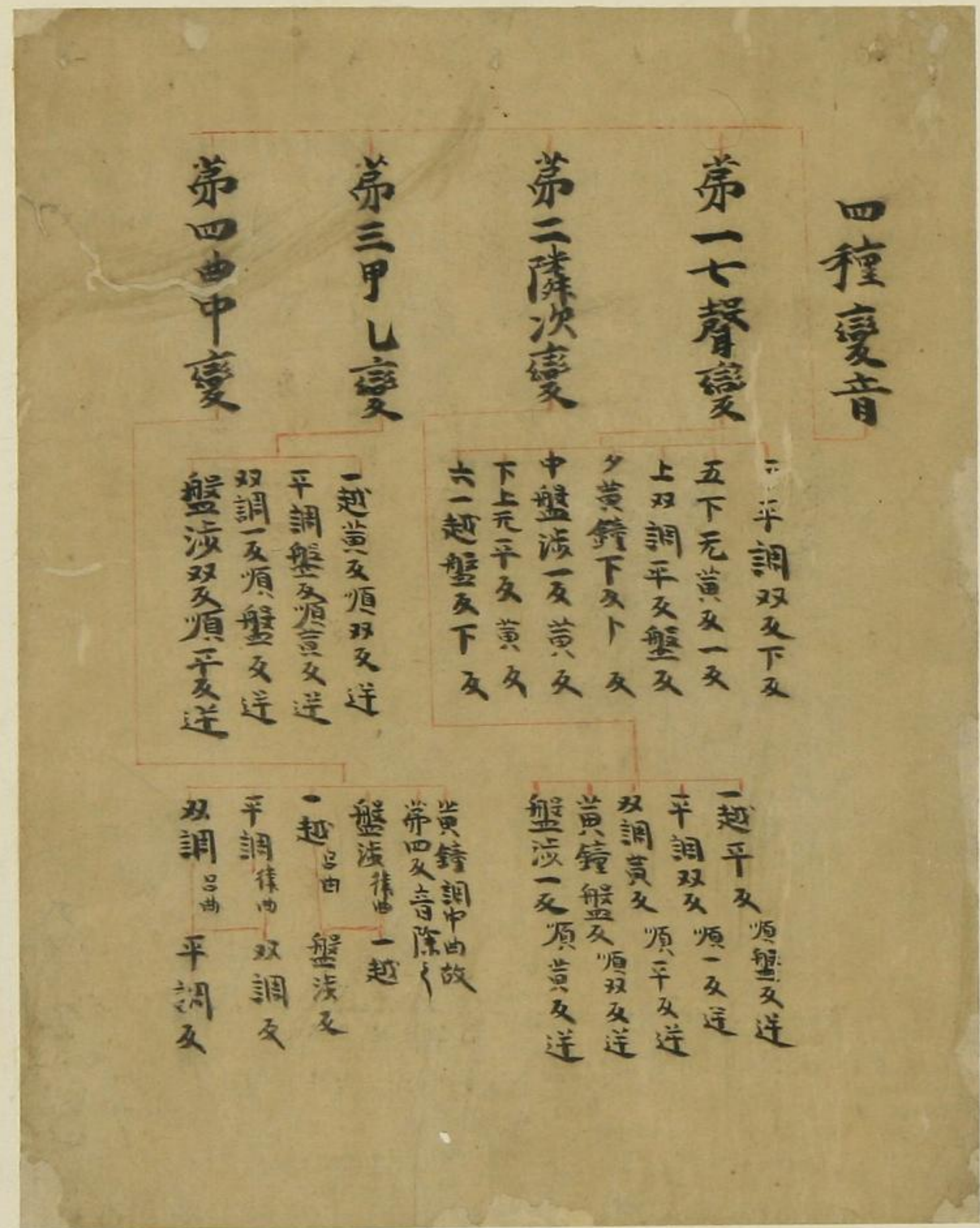
平調 双及下及
五下无黄及一及
上双調平及盤及
夕黄鈴下及下及
中盤法一及黄及
下上元平及黄及
六一越盤及下及

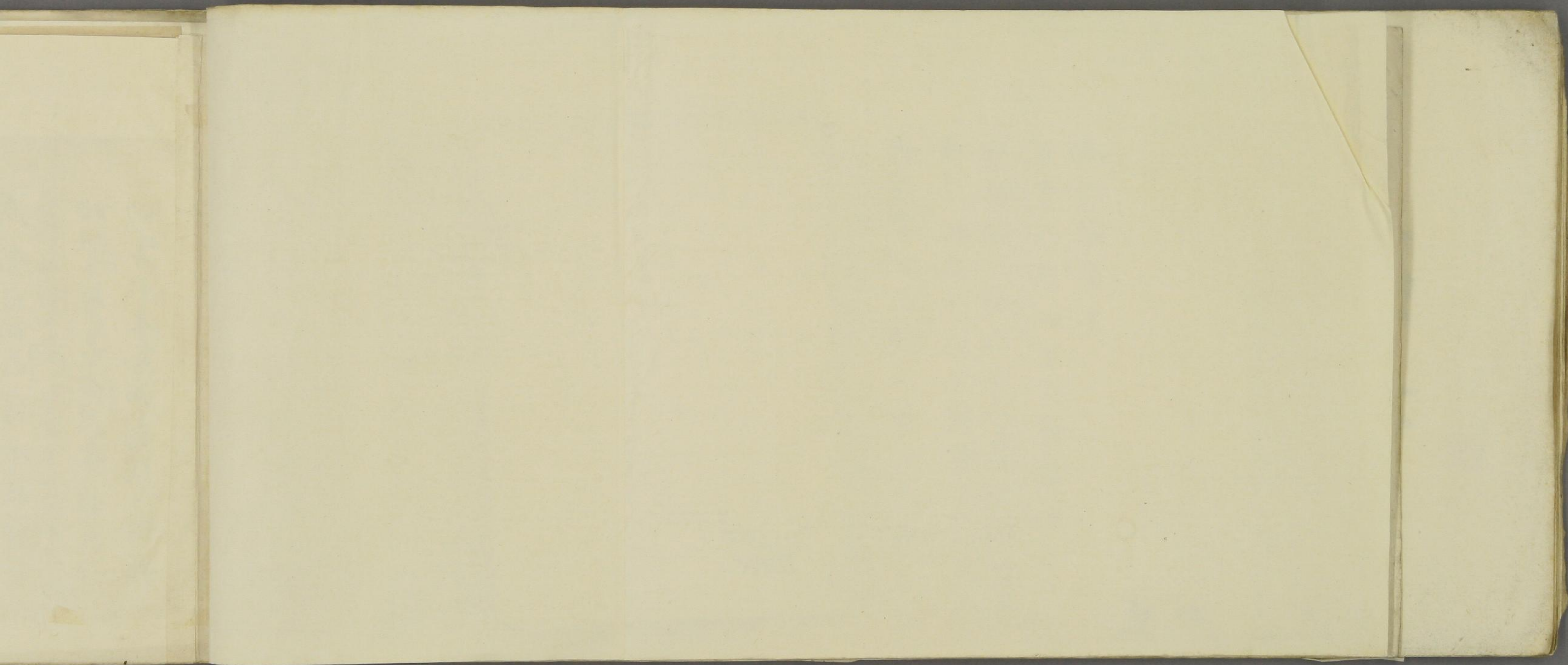
第三甲し變

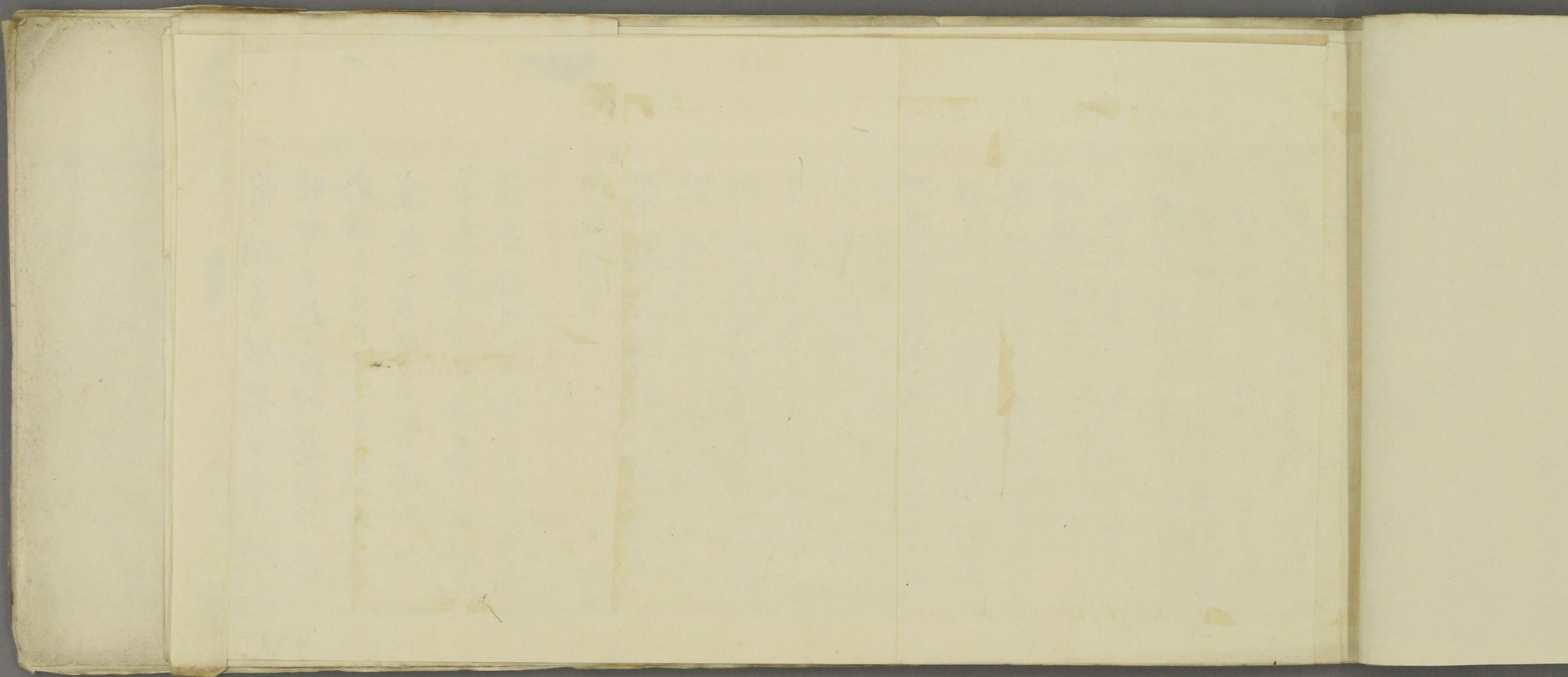
一越並及順及及逆
平調盤及順及及逆
双調一及順盤及及逆
盤法双及順平及及逆

第四曲中變

一越平及 順盤及及逆
平調双及 順一及及逆
双調黄及 順平及及逆
黄鈴盤及 順及及逆
盤法一及 順黄及及逆
黄鈴調中由故
第四及音除
盤法律曲一越
一越 自由 盤法及
平調律曲 双調及
双調 呂曲 平調及







第頓首啓前日幸披
眩即日起居冲勝韓馬
明借三五日節中數貴游
宴集宴使之賞玩如何
忝親契敢尔過節面納也
謹奉啓不宣第望公寺丞

仁親閣下

第頓首再拜新恩吏
部侍郎台坐春和恭惟
神明相佑台候起居萬福
第以白蒙恩大賢還朝以
開太平喜乃在已第薄留
泗濱慈然來思豈無念哉
謹奉狀上賀不宣門人米
芾頓首再拜新恩吏部
侍郎台坐

此刻墨妙軒法帖內米
芾數段向於停雲快雪諸

帖所未嘗見者用筆極其神
妙予於直舍兩窗偶一臨梅
花山石草法于萬一然與廬
山面目相對不於愈於信手

謹題乎壬午閏五月十有二日

薊林詩正識

壬辰春日錢長祚書



劉數版向於停雲快雪法

帖所未嘗見者用筆極其神

妙予於直舍兩窗偶一臨極

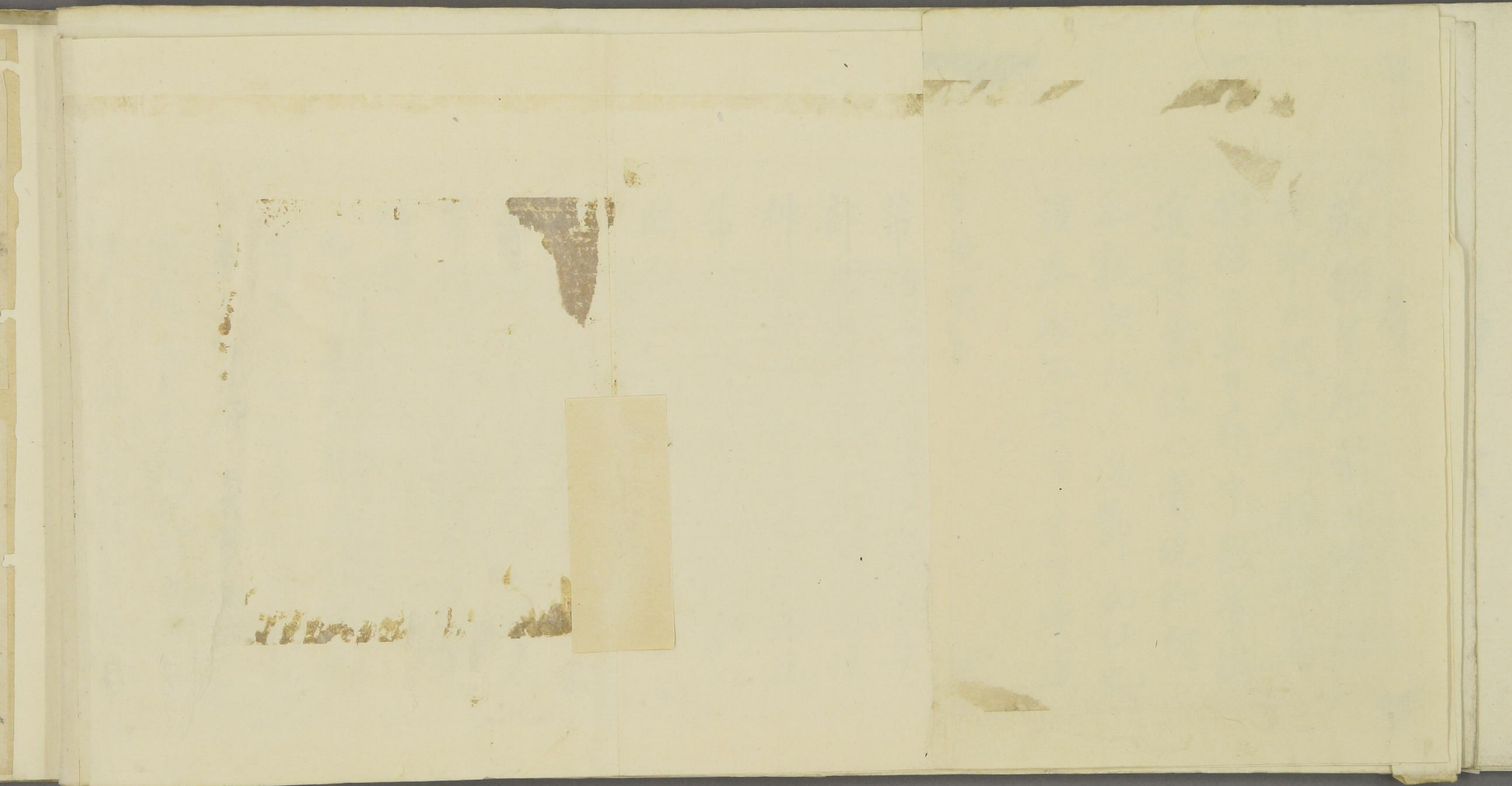
妙未得筆法于萬一然與廬

山面目相對不於愈於信手

澹鴉乎壬午閏五月十有二日

薜林詩正識 壬辰春日錢長祚







鳥羽院小者

佐藤左衛門尉法

家一西行

一白

七月初八日

家一

又三

半通

綾霜百得良扇
調系首沾輝可疎

巧所

冒園師のよに

造管たよよ山少を

たよふ製絲坊

開化は徳のよよ

いと長き代の

たよのよ

川上花巻

姑蘓汎月 宗王院

夜来誰共汎靈槎

飛上牽牛織女家

但覺滿身皆雨露

絶無一点著塵沙

秋將寒玉清風陣

月借鎔銀潑浪花

投曉歸來互相告

等閒向俗人誇

今春杭太郎腰間ニ一、黒天着巾
ヲ佩テ是ニ一極一、貴美且公ヲ入レ
鬼ヶ嶋ニ到リ、金銀、宝物ヲ得ント

欲ス路還、木麻、大熊、猪、草
并、謁、曰、杭君、腰間、巾着ハ
何ッヤ、コト斯ニ極一、奇味、園子也
諾、一個給テ、供奉セントテ、臺ニ

支那、朝鮮、ヲ經テ、ステニ、ヲニカ嶋
ニ、ツキニケリ

又錦所書

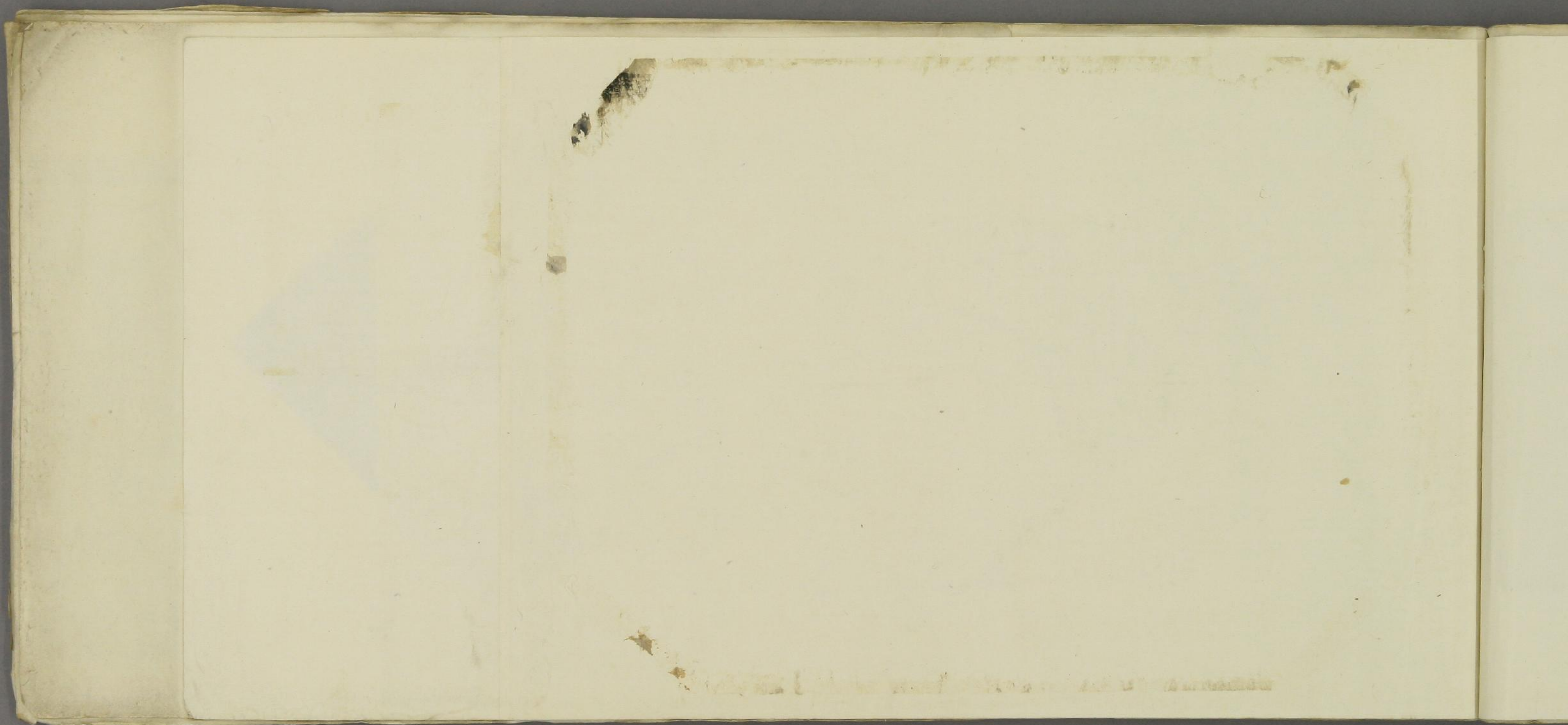


Vertical calligraphy on the left side of the painting, including a red seal below the text.


Small handwritten characters on the right side of the painting.









古
 子










法隆寺古文書
 天平寶字





山崎美成印中書院

辭是為經法

あやむしり

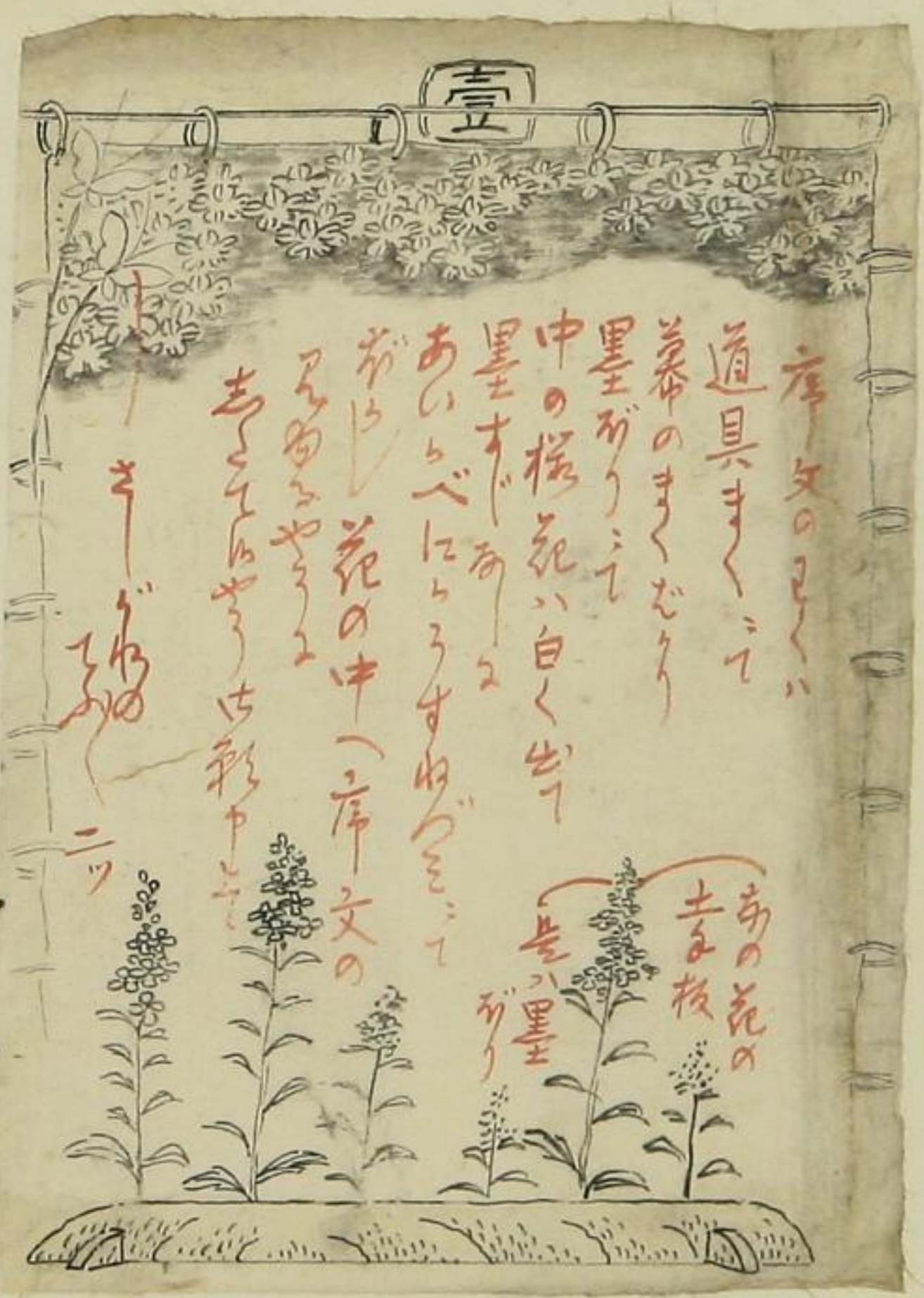
弁舊記



物音行河り

道是るま一り

い井ロ エエへ ぶとほ
いあひ エエへ ぶとほ
ほり ぶとほ ぶとほ
ぶとほ ぶとほ ぶとほ
○原牛 原牛 原牛
字 字 字
い ば ば ば
つ 文 文 文
方 方 方



Handwritten calligraphy on aged paper, including the characters '白' and '道'.

物音行河り

山崎美成印中書院

辭是為經法

あやしあやし

弁舊記



物音行河り

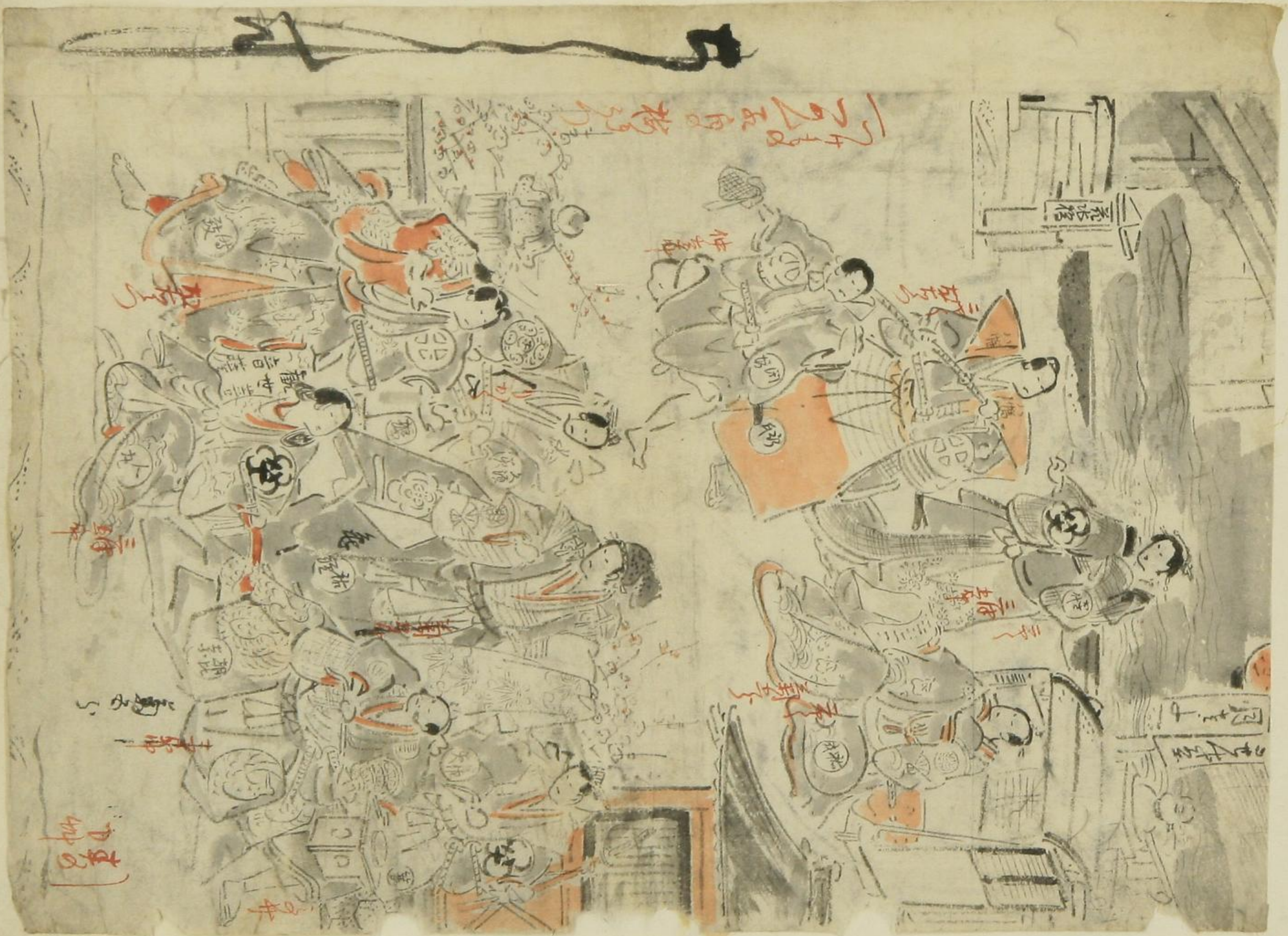
道音をきり

い井ロ エエへ ぶすほ
いあひ エエへ ぶすほ
ほり じふ ぶすほ
ずづ 北假字遠あね
○原中興字書あかひ
字證を愼に知らば
いんばなき手風のやうに
少後分のなくし
つみ文の二秋の
方ゲト



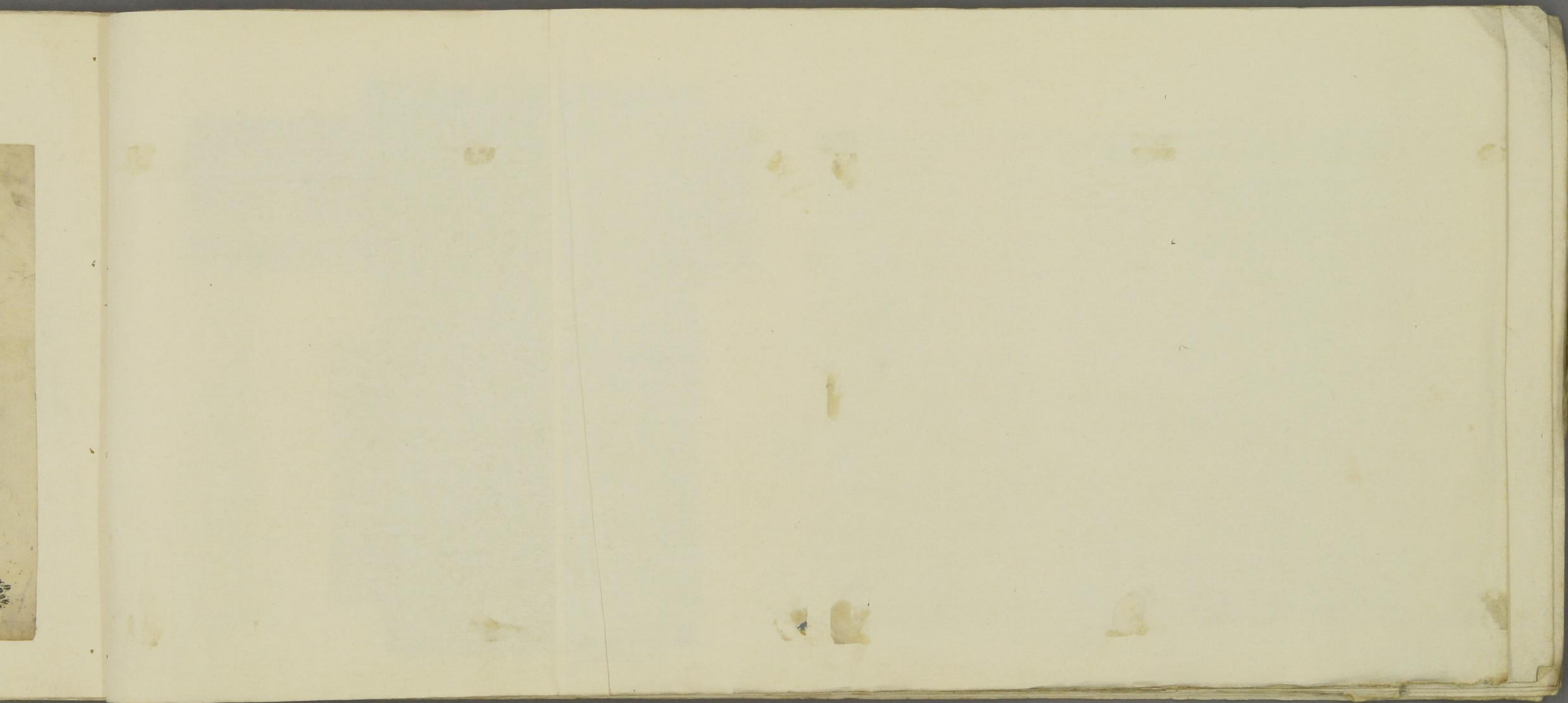
Handwritten calligraphy on aged, torn paper. The text is written in various styles, including cursive and block characters. There are several red square seals scattered throughout the page.

物音行河り



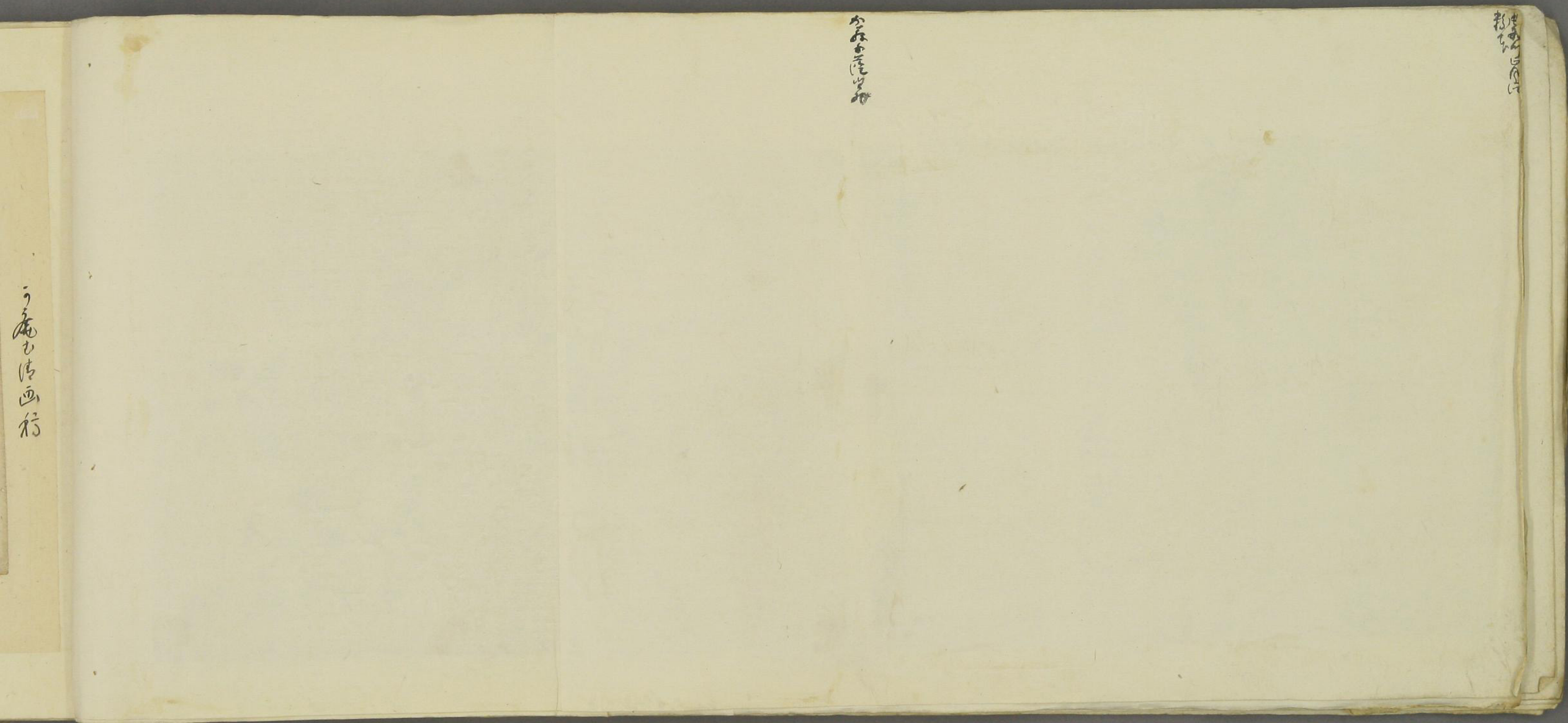
集居清海堂
 芝居者板圖
 外之町
 河作爲繪
 百一葉





大 名 類



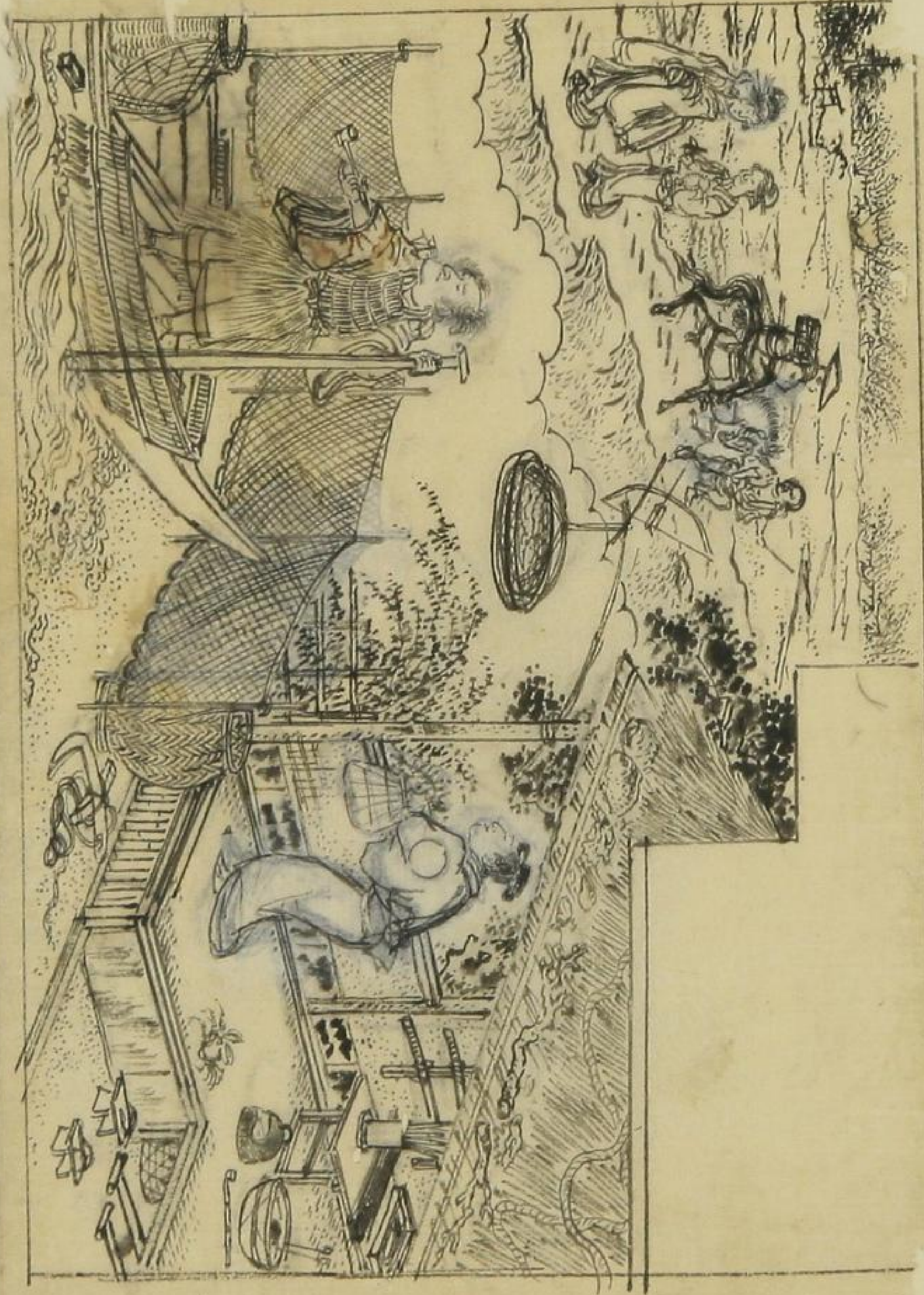


行
画
之
卷
之
一

行
画
之
卷
之
一

行
画
之
卷
之
一





歌川皇國画行(三枚)



うたの国画行



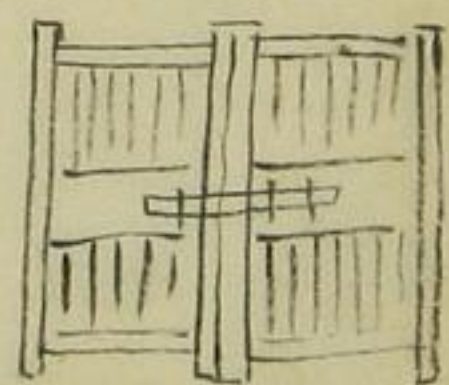
福之門宗家

横之内ノ門

此を右より四ノノ地ヨリ門人等

此方ヨリ

此方ヨリ

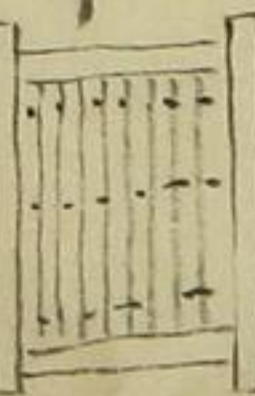


内ノ

- 一 此方ヨリ横之内ノ門
- 一 此方ヨリ横之内ノ門
- 一 此方ヨリ横之内ノ門



竹ノ



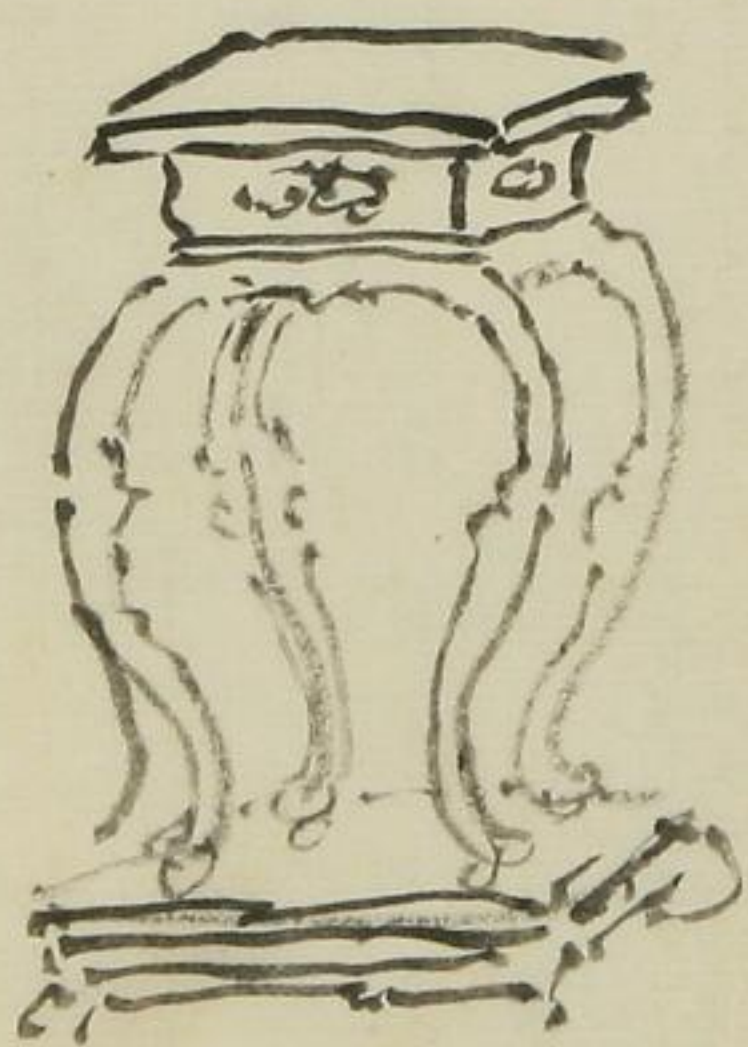
此方ヨリ

源氏ノ名作

舟ノ巻

里塗宗巻下

中丸金峯君所蔵



土左四枚摺歌

たまたま

たまたま

たまたま

たまたま

たまたま

たまたま

大田直次筆 十五

心春夜宴田氏宅

細雨香宵^宴花間晚更移^席

清樽多盛饌^{迷興自無涯}

通雅

統和遼聖宗年號

十五年者宋太宗當至道三年

燕臺憫忠寺沙門智光

夢溪筆談卷十二

幽州僧行均集佛書中字為切韻訓

詁凡十六萬分四卷號龍龕手鏡燕

僧智光為之序甚有詞辯契丹重熙二

年集契丹書甚嚴傳入中國者法皆死熙

寧中有人自虜中得之入傳欽之家^傳正

師浙西取以鏤板其序末舊^{重熙二年五}

月序蒲公削去之^{觀其字音韻次序皆有}

理法後世殆不以其為^{意人也}

宋沈括存中述為熙寧^{元豐間}

文獻通考知其有夢溪筆談^{二十六卷}



嘉定馬元
調序文



西少十
玉石書印大補

桐生

吾田安平様 芳也





都察院巡按福建政目貳號勘合到任前事除遵奉外今照前因擬合就行為此舉衛
 今將繳到各該供結示圖同具本衛官吏結狀備造文冊一樣卷本伏乞照例轉送優給
 施行須至冊者
 計開
 洪秋人朱孔陽年柒歲係福建節司備寧衛左千戶所人女世臣



雪村
雪村
雪村

妻のほろ風
かろくまは
いんまの
西三任有切并詠

平定國に於て之派

二つにわかれし

平定國に於て之派
 二つにわかれし
 一は東に
 一は西に
 一は南に
 一は北に
 一は東に
 一は西に
 一は南に
 一は北に

チヤンセ
 江致の街門ヲ
 海たる孫行券
 印度の南す

平定國に於て之派
 二つにわかれし
 一は東に
 一は西に
 一は南に
 一は北に
 一は東に
 一は西に
 一は南に
 一は北に

勅符 從五位下守伊勢守卜部宿禰知誠
權守從五位下源朝臣正澄等

應警備事

使散位正五位下大石正弘

內舍人正六位上和善朝臣長次

右今日避位傳皇太子當此際會疑警物輿
為警同彼國是件人等賣木契發遣國司
美知依例施行勅到奉行

寬永六年十月三日

午

本號詳書

朱汁傾來

不得附之也既三不得附四則六五君子維有解

吉有孚于小人注六居尊履中而應乎剛可以有

退也疏正義曰君子維有解吉者六五居尊履

之時可以解於險難辭也有解於難維所以獲吉

道解難則小人皆信服故曰有孚于小人也象

德故退而上六公用射隼于高墉之上獲之无不

利注云初為四應二為五應三不應上失位負乘

之所履上六居動上為解極將解荒悖而除

歲乱者也故用射極而後動成而後舉故心度

之而无象曰公用射隼以解悖也疏正為日隼

鳥鸛鶴之屬墉牆也六三失位負乘不應於上即

是罪罟之人故以譬於隼此借飛鳥為喻而居下

體之上其猶隼處高墉隼之為鳥宜在山林隼於

人家高墉必為人所繳射以譬六三處於高位必

當被入所誅討上六居動上為解極將解

荒悖而除穢亂故用射也極而後動成而後舉

故必獲之而无不利故曰公用射隼于高墉上

獲之无不利也公者臣之極上六以陰居上故謂

之公也象曰解悖也者悖逆也六三失位負乘不

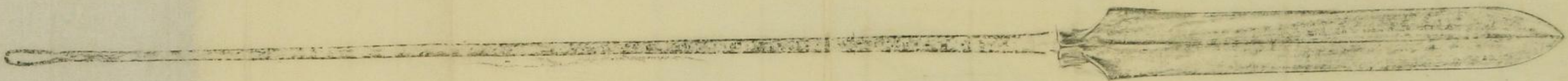
應於上是悖逆之人也上六居動上能除解六

三之荒悖故云以解悖也

周易注疏卷第六



鎮西八郎為胡夫、根四



島藤五郎所藏

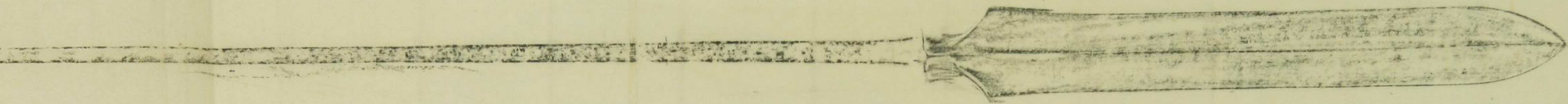
天保十二年四月於渡邊氏摺幕之

島氏藏鐵圖



鎮西八年為胡夫一棍百

島藤五郎所藏





鞘袴

の学理を

鞘袴は、明和や万葉の唐曲の用
 したる和蘭匠画の基に、創作したる版画の一種
 たる光沢ある宝珠の刀鞘に映せしむるに在りて
 此の其正形を伝ふるを得べきものなり。本来
 此等の玩具は、製造者愛するものなり。當時
 江戸に勤の末の帰郷のとき、江戸土産として
 各地に持ち帰りたるものなり。映画の方法
 は、○示ある部分より刀鞘を占め、^{而して}一面より鏡
 面を映し、其何物も描き、^{たゞ}たゞを写すのみ

さるる日本國は本橋隊人の木杖を挽き截
 りたる形を写したるものなり。其杖は、一見
 するに、まは原画の何物なるやと、知るべき
 相画^雅又は、正木の跨画を刀鞘の如き楕圓
 形の大きな物體に、反映せしむれば、^{光沢ある}細かなる菱
 の形相を呈す。此の如く、^{細かなる菱}菱の形を、^{原画}原画
 を、^{映象}映象の如く、^{正しく}正しく、^{写す}写す、^{こと}こと
 求めたるものなり。此の如く、^{原画}原画の、^{映象}映象の、^{相違}相違
 相違、^{原画}原画の、^{映象}映象の、^{相違}相違、^{原画}原画の、^{映象}映象の、^{相違}相違
 相違、^{原画}原画の、^{映象}映象の、^{相違}相違、^{原画}原画の、^{映象}映象の、^{相違}相違

原人の、
 鞘袴は、
 二枚の、



